



日本プライマリ・ケア連合学会

四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩

事務局：〒761-2103

香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1

綾川町国民健康保険陶病院気付

副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛

Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795

E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 日本PC連合学会四国支部大会（徳島）の開催報告

第14回四国支部学術集会 大会長 海陽町穴喰診療所 白川光雄

日本PC連合学会四国支部大会/第21回四国地域医学研究会 学術集会・合同集会が本年11月15日16日の両日、徳島大学蔵本キャンパス 日亜メディカルホールで開催されました。四国四県の持ち回りで開催されますこの学会も4周目（四国地域医学研究会では6周目）で、今回は徳島県で担当させていただきました。

新しい専門医制度で19番目の基本専門領域として確定した総合診療専門医を目指す上で必須であるのが、不定愁訴に対する対応であると考えられます。そこで、今回の大会テーマは「心理面、社会面を含めた全人的な医療を四国から発信!」とさせていただきます。このテーマに沿って「日常診療に潜む心身症」と題して、初めて日本心療内科学会中国・四国支部との合同シンポジウムを企画しました。会場とシンポジストの先生方との熱心なご討議の後、今回のシンポジストでもある香川大学の岡田宏基先生に、特別講演として「現代版不定愁訴 MUS (Medically Unexplained Symptoms) の概要と対応」というタイトルのご講演をいただきました。



このたびも、日本PC連合学会理事長丸山 泉先生には、大変ご多忙な中、合同シンポジウムにもご助言いただき、また理事長講演も快くお引き受けいただきました。「Facts に学び地域を診る」と題したご講演では、現況のご報告をいただきました。



前回高知県で開催されました大会に引き続き、医学生・研修医を対象とした臨床推論ケースカンファレンス、後期研修医によるポートフォリオ発表会など医学教育に関連した取り組みも行いました。次回開催の香川県を代表して、副支部長/事務局長である大原昌樹先生からいただいたご挨拶でも、このような企画の継続を検討していただけたことでした。

一般演題では25演題のうち、医学生による7演題が発表され、活発な討論が行われたと思います。一般講演終了後には、徳島大学の赤池雅史先生による今後の医学教育についてミニレクチャー「これからの医学教育～総合診療への期待～」を拝聴し、これからのプライマリ・ケア教育の方途とすることができました。

3年後の2017年（平成29年）には、日本プライマリ・ケア連合学会学術集会の四国支部主催が内定したとのこともうかがっております。丸山理事長のご臨席の下、四国支部の会員相互のまとまりを示すことで、3年後の全国大会へのキックオフ・ミーティングというべき、充実した学術集会にすることができました。



徳島県内をはじめ学会に関わる先生方、また学生の皆さんのご協力で、これからの日本に医療に向けた、四国からの全人的な医療を発信できる機会になりましたことを深く感謝致しまして、私からの開催報告とさせていただきます。

★2 歯科から 「口腔ケアネットワーク研修会」について

三豊総合病院企業団歯科保健センター 木村年秀

平成26年10月30日、三豊市文化会館マリンウェーブにて主催：香川県歯科医師会（口腔ケアネットワーク構築事業）、三豊市介護サービス事業者協議会、共催：日本老年歯科医学会香川支部共催で口腔ケアネットワ

ーク研修会が開催されました。講師としてお招きしたのは、米山歯科クリニック院長・米山武義先生です。米山先生は訪問診療をしていた介護施設の看護婦長からの「口腔ケアをしてもらって、発熱する人が極端に減ったし、肺炎になる人も少なくなった」という言葉をきっかけに、1996年から東北大学老年・呼吸器内科 佐々木英忠教授グループと誤嚥性肺炎と口腔ケアに関する共同研究を開始しました。全国11か所の特別養護老人ホームで、無作為に歯科衛生士による専門的な口腔ケアを行うグループと従来通りのグループを2年間追跡比較した結果、口腔ケア群は発熱が半減し、肺炎発症者も4割減少しました。

1999年に、この研究成果をまとめた「米山論文」はランセットに掲載され、世界中に「誤嚥性肺炎予防に口腔ケアを！」が広まりました。講演では、裏話も交えてこの研究についてお話していただきました。また、食べられない、しゃべれなかった要介護者が義歯を作成することで固いものを食べることができるようになり、はっきりと発音できるようになった症例をビデオで見せていただきました。研修会には介護関係者、歯科関係者、病院職員など344名が参加し、香川県西讃地区における口腔ケアのネットワークがさらに広がるきっかけになったと確信します。



★3 愛媛県研究会における最近の活動

四国ブロック副支部長（愛媛）川本龍一

1) 地診療船で離島医療に（2010/08/29、大洲市青島）

学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、大洲市青島に向かった。診療船というだけあってあらゆる設備が整っている。診察室、心電図、超音波、X線装置など。青島は長浜町沖の瀬戸内海に浮かぶ小島である。船が港に着くと待ちかねた住民10名が集まってきた。猫の多い島と聞いていたがたくさんの猫も出迎えてくれた。担当者が手際よく、検診を行い、昼ごろには終了した。離島医療にはこのような診療船の存在は貴重である。



2) 第2回えひめ多職種連携ワークショップ（2010/10/05、東温市）

今回の多職種連携ワークショップは、愛媛大学医学部5年生の上本明日香さんと松山大学薬学部4年生の澤本篤志さんの企画・運営により開催されました。ワークショップは、ちびまる子ちゃんの家族の一員になることから始まりました。1



0年先のこと、友蔵さんが脳梗塞になるという出来事をきっかけに家族のメンバーがどのような役割を果たせるのか、メンバーになったつもりで演技をしつつ真剣に考えました。次いで、多職種で患者を診ていく場合を想定し、将来自分がなりうる職種以外になって考えました。各職種の役割を深めることになり、最後に自分が将来なりうる立場になって考えました。

一連の作業を通して、多職種連携とはどのようなことかを体験できました。重要なことは、患者さんの希望をかなえるために、各職種の立場から何ができるのか、話し合いを通じて各職種の役割を理解し、互いに学び、また任せることも重要だということです。非常に有意義なワークショップでした。糖尿病に関する貴重な特別講演をいただきました宮岡弘明先生にもお礼申し上げます。



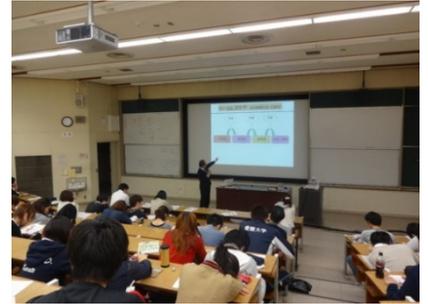
3) 本学会会員が医大で地域医療学の講義（2014/10/16、愛媛大学医学部）

従来、禁煙の啓発活動を行っている、かとう内科クリニック院長・加藤正隆先生が「家庭によるタバコフリー活動」について、医学部で講演を担当しました。たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、その

害と影響の大きさについて、その発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講演していただきました。全身を禁煙グッズで包み講演する姿に先生の意気込みが感じられます。

4) 高齢者医療と福祉一求められる医師像 (2014/10/30、愛媛大学医学部)

綾川町国民保健陶病院院長の大原昌樹先生が、地域の第一線で取り組んでいる多職種連携の中での地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えて教えて頂きました。今回の講演では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネジャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明して頂きました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性。老健や特養施設の役割。在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんの喜びについてなど幅広いお話でした。



★4 高知臨床推論ケースカンファレンスのご紹介

佐野内科リハビリテーションクリニック内 高知総合診療・病態診断研究会事務局 佐野良仁

私たちは平成24年1月から『高知臨床推論ケースカンファレンス』を開催して、現在までに第22回まで開催しました。この勉強会の目的は、これからの高知の医療を担う若手医師や医学生に、「検査で診断を付けようとするのではなく、患者の主訴から鑑別診断を考えて、問診を重ね、鑑別診断の確からしさ／合わないところを詰めて行き、最終的に確定診断に迫るための必要な検査を的確に選び、確定診断するために検査をする。あくまでも検査は補助であり、主になるのは主訴と問診、身体所見から鑑別診断を突き詰めていくこと」と伝え、共に学ぶために始めた勉強会です。

都会ではこのような勉強会が盛んに行われていますが、高知では3年前には存在しなかったのです。高知で開催される気配がないことを憂いて、当時、高知大学医学部総合診療部にいらした浅羽宏一先生に相談したら、「その熱い想いを持っている佐野先生が始められたらどうですか？」とお言葉をいただき、試行錯誤で開始したのがきっかけでした。そして、出来る限り月1回のケースカンファレンスの開催を目指して、その中で年3回は県外から臨床推論に長けた講師を招聘しております。

現在、『高知総合診療・病態診断研究会』という会を立ち上げて、同研究会が主催する『高知臨床推論ケースカンファレンス』を開催しております。高知大学医学部附属病院総合診療部准教授の竹内世生(せいしょう)先生に代表世話人になっていただき、私は世話人兼事務局で、企画・広報・運営などを担っています。私個人で運営すると、独り善がりやで偏った内容になる可能性を危惧し、色々なアドバイスをいただいております。また、症例提示役とファシリテーター役をそれぞれで担って分担しています。もう一つ、武内先生に相談したことは外部講師を招聘する場合の方法です。一介の開業医の私はそのような段取りをしたことがありませんでした。どのような手順でどういった文面でお願ひすることが正式な方法かを教えていただきました。

さらに、一般社団法人高知医療再生機構への補助金申請のことも教えていただきました。この機構の目的は、『高知を、人を育てる肥沃な大地に』をモットーに、「高知が一番のキャリア形成サポート県」になるべく、医療従事者の学びを支援する事業を行っております。高知に居たら一番働きやすい、「医師に学んで欲しいこと、医師が学ぶべきこと」を学びやすい、そんな環境を醸成したいのです。その成果は中短期的な医療従事者の数の増加と質の向上です。その先には最健康長寿県が見えてきます。人がすべてです。医療再生は、箱、容器物からではなく人から始まります。(以上、ホームページより抜粋。) このようなありがたい理念の元、『専門医等不足分野支援事業』として補助金を交付していただき、講師招聘費用に充てております。



これまで、千葉大学総合診療部教授・生坂政臣先生、自治医科大学地域医療学講座総合診療部門教授・松村正巳先生、藤田保健衛生大学救急総合内科教授・山中克郎先生、神戸大学医学部附属病院感染症内科講師・大

この勉強会の主な目的

- 単なる座学ではない、双方向型の参加型カンファレンスにしたい。診断クイズではなく、問診から診断に至る推論過程を共有したい。
- 発言の中心を、臨床研修医および学生を中心にしたい。
- 恥ずかしがらずに、ざっばらんに意見を言える会にしたい。
- たくさんの症例検討ではなく、1例にじっくり時間を掛けて、問診と身体所見から考えてから、その後に検査の選択と組み立てを考えたい。
- 参加された指導医や専門医の先生方には、研修医や学生の意見を受けて、適宜追加のご教示をしていただきたい。
- そのうち、自分の経験した症例で、みんなに勉強になる例を、研修医で持ち回りで症例提示できたらいいな。
- そのうち、学生一研修医一指導医一診療所医師が集まって一緒に勉強できたら、おもしろそうだ。
- そうしてみんなで作り上げていく、そんな集まりにしたい。

路剛先生をはじめ、ほか数名の講師の先生方を招聘させていただきました。これは、研修医や医学生の教育だけでなく、私たち指導医側も、その手法を学び、自分たちの行うカンファレンスの進行方法のスキルアップのためにも行っております。

このように発展しつつある集まりです。来年度からは更に、プライマリ・ケア連合学会の単位申請も行き、四国のプライマリ・ケア連合学会の先生方にもご案内を差し上げる予定としております。

★5 香川県の評議員の紹介

四国ブロック支部副支部長・事務局長 大原昌樹

横井徹（横井内科医院）：内科医としての研修、病院勤務を経て2000年から地元香川で開業医になった26年目の医師です。自身は家庭医療研修を受けていませんが、これまで種々のWSに参加し自己学習を続けてきました。今後も生涯研修医として勉強を続けてゆきます。現在香川大学総合内科5年生診療所実習担当として毎週学生と交流し、また、月1回の臨床推論勉強会を学生たちと楽しんでいます。

木村年秀（三豊総合病院企業団歯科保健センター）：主に在宅や介護施設への訪問歯科診療・口腔ケアを担当しています。病棟入院患者の口腔ケア、がん診療拠点病院として、がん周術期や抗がん剤治療・放射線治療時の口腔機能管理にも積極的に取り組んでいます。岡山大学歯学部学生の学外実習、在宅訪問歯科診療の実習の受け入れもしており、超高齢者社会で活躍できる歯科医師養成を支援していきたいと思っています。

佐藤清人（小豆医療組合）：内海病院、土庄中央病院の2つの公立病院の再編統合による新病院「小豆島中央病院」の整備を進めております。医師確保など課題は山積しておりますが、平成28年春の開院に向け、地域における真の中核病院として、島民全員から親しまれ、信頼される病院となるよう、努めてまいります。会員の皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

塩見勝彦（塩見内科医院）：平成4年より香川労災病院にて呼吸器・腎臓・代謝内科を担当していましたが10年前に高松市内の父の診療所を事実上継承することになりました。親子3代、4代に渡り通院される患者さん達を通してプライマリ・ケアの楽しさを実感しております。平成19年より24年まで香川大学の臨床研修協力施設として研修医を受け入れておりました。宜しく願い申し上げます。

藤田周一郎（医療法人社団素耕会富士クリニック）：香川県観音寺市内で一般内科、消化器科、小児科を中心にプライマリ・ケア医として無床診療所をしております。当院は主として、漢方、鍼灸を取り入れた診療の関係上、高齢者を中心に女性患者を多く診させて頂いております。昔より家庭医療の研究会に入会して実習についての指導を受けていました。今後共、町医者の一医師として地域医療に取り組んでいきたいと考えます。

泉川美晴（香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科）：平成21年から本大学医学部附属病院の地域医療教育支援センターの教員を務め、医学生や地域枠学生の地域医療教育に従事してきました。医学教育においても、大学と地域の連携が重要な時代になってきたと感じております。今後も、地域の指導医の先生方と協力して地域医療教育に貢献したいと考えております。

中津守人（三豊総合病院地域医療部）：三豊総合病院での一般内科診療の他、在宅医療、老人保健施設での診療、へき地診療所支援、移動健康教室などに取り組んでいます。医学生の地域医療実習の受け入れも行っており、医学生や若い先生方にとって魅力のある地域医療が展開できればと考えています。

久保文芳（小豆島町内海病院）：小豆島の医療の確保に永年、取り組んできました。院長は交代しましたが、統合される小豆島中央病院の立ち上げに向けて努力しています。今後ご支援をよろしくお願いいたします。

千田 彰一（香川大学医学部附属病院総合内科診療協力医）：香川大学名誉教授、前病院長、徳島文理大学副学長として、医学部生の臨床実習で内科外来診療に携わるとともに、医療系学部生に医学・医療全般、生命倫理、臨床医学総論などを講じています。日本専門医機構理事として、新しい専門医制度構築に携わり、ことに総合診療専門医の創成に取り組んでいます。

大原昌樹（綾川町国民健康保険陶病院）：病院、総合保健施設、老人保健施設が一体となり、綾川町の地域包括ケアの拠点として機能するように努力しています。地域における在宅医療の充実、医療と介護の連携、住民活動の支援などに取り組んでいます。四国ブロック支部事務局長をしておりますので、何かありましたら遠慮なくご連絡ください。